所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻	修了年度	2024 年度
氏名	蔣 文心	指導教員 (主査)	金庭 久美子

論文題目	断りにおけるフィラーの特徴および機能に関する研究 —中国人学習者の問題点の解明を目指して—
------	--

本文概要

1. 研究背景

断る際に断りの言葉を直接に述べると、対人関係上の障害が生じる可能性がある。ルビシヤ (2011) は断り行為においては、フィラーなどのパラ言語表現は重要な役割を果たしていると述べている。また、日本人母語話者の日常会話を観察すると、流暢に話している時も、全く絶え間なく話を続けるということはない。常に「あのー」「えーと」「なんか」「まあ」のようなフィラーを発話に入れてポーズを埋めることが多い。一方、中国人日本語学習者の場合、日常会話で使用されるフィラーの種類も使用頻度も、日本語母語話者ほど巧みに使われているとは言えない (葛 2019)。断りを行うとき、フィラーを発話に挿入すれば、話し手の配慮を聞き手に見せ、コミュニケーションをスムーズに進めることができると考えられる。フィラーは相手に配慮を示すことができ、会話を円滑に進めるという機能があると言われている。しかし、対人関係の中で不満などが生じる可能性がある断り場面におけるフィラーの研究はまだ不足している。さらに、学習者にとって、翻訳が難しく教科書からの指導もほとんど見つからないという現状では断りのフィラーの指導が至らないため、実際に断る時、フィラーを把握できず人間関係を損なう可能性がある。

本研究では、断り場面において、日本語母語話者が使うフィラーの特徴並びに中国人学習者が使うフィラーの問題点を明らかにする。

2. 先行研究

2.1 断りにおける研究

施 (2004) は、日本人大学生間と台湾人大学生間の自然な電話会話をデータとし、待遇コミュニケーションの視点を用い、談話レベルから依頼に対する断りの言語行動について考察を行った。その結果、台湾人の「断り談話」において、「理由説明」が一番多く使われ、日本人の「断り談話」において、「謝罪」の使用が最も多くみられると述べている。

張 (2019) は断り表現では、日本語母語話者は断りを行う前に「自分の言語編集の心的操作を相手の前に示し、相手の気持ちへの配慮や相手への丁寧さを表す」と述べている。それに対して、中国語母語話者は、「理由を重ね、詳しく説明することのような『理由説明型』及び話題を転換することのような『回避型』でもある」と指摘している。

2.2 フィラーにおける研究

呉 (2006) は「フィラーは文章のリズムを取ったりするために用いられるのではなく、相手の反応が気になったり、自分が言葉に詰まった時に、素直に出てくるものである。決して調子を取るために無意味に用いられたりするものではない」と述べている。

周 (2012) は依頼場面のフィラーをロールプレイを用いて研究を行った。「教科書にフィラーの機能、特により把握しにくいフィラーの機能については、丁寧に紹介されなければ、単なる接触場面からの自己流の経験にのみ頼って使用することになり、日本語学習者たちに誤解される可能性が高い」という中国人学習者の問題点を指摘している。

3. 研究課題

- (1)断り場面において、日本語母語話者が使うフィラーはどのような特徴があるか。
- (2)断り場面において、中国人日本語学習者は母語話者に比べ、フィラーにどのような問題点があるか。

4. 調査方法

日本語母語話者（以下 JJJ）と中国人日本語学習者（以下 CCM）それぞれ 50 人のロールプレイのデータを調査対象とする。CCM を SPOT の成績によって中級学習者と上級学習者に分けた。会話データは I-JAS 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」の「断り」場面のロールプレイのデータを用いる。ロールプレイカードは以下のようなものである。

あなたは、日本料理店でアルバイトをしています。接客スタッフとして注文を取ったり、料理を運んだりしています。店長さんから、「料理を作る人が一人やめたので、来月から料理を作る仕事を担当してほしい」と言われました。しかし、あなたは料理は苦手だし、日本人と話せる仕事がしたいので、この話を断りたいと思いました。店長に、料理の仕事の話をじょうずに断って、今の仕事を続けられるように話してください。

4.1 フィラーの分類

山根（2002）の分類に従うと、母音「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」とそれらの母音が伸びた音は母音型のフィラーと呼ばれる。「エツ」「アノ」などは日本語の語彙としてのフィラーである。これらを語彙型と呼ぶこととする。調査対象データに現れ、まとめあげた語群は、表 1 の通りである。

表1 語群とそこに含まれる書字形

語群	含まれる書字形
あー類	ああ、あー、あう、あっ、あん、ああん、あい
えー類	ええ、えー、えっ
ん類	んー、んっ
うん類	うー、うう、うん、ううん、うんと
お類	おー、おっ
えーと類	えーと、と
あの類	あの、あのー
その類	その、そのー
まあ類	まあ、ま
その他	い、いえ、いや、ねえ、はあ、はい、へ、ほう、やあ

5. 調査①フィラーの使用数

まず、調査①ではフィラーの使用数を見る。会話資料から JJJ と CCM の発話文にフィラーが出現した発話を取り出した。そして、フィラーの出現数がそれぞれ総発話数に占める割合を算出した。結果は表 2、3 の通りである。

表2 JJJ と CCM の発話におけるフィラーの使用数と割合

発話者	発話文数	フィラーの使用数	割合（一文あたり）
JJJ	811	607	0.75 回
CCM	625	1368	2.19 回

表3 各フィルターの使用率 (1 万語あたりの調整頻度)

	JJJ		CCM 中級		CCM 上級	
1	あー類	154 (27.8%)	あー類	537 (36.5%)	あの類	339 (34.7%)
2	あの類	154 (27.8%)	うん類	238 (16.2%)	えーと類	289 (29.5%)
3	えー類	62 (11.2%)	ん類	207 (14.1%)	えー類	151 (15.5%)
4	まあ類	42 (7.7%)	あの類	159 (10.8%)	あー類	117 (12%)
5	ん類	41 (7.4%)	えーと類	147 (10%)	うん類	24 (2.5%)
6	その類	31 (5.7%)	えー類	103 (7%)	ん類	19 (2%)
7	えーと類	30 (5.5%)	お類	29 (2%)	その他	15 (1.6%)
8	その他	18 (3.3%)	その他	29 (2%)	その類	9 (1%)
9	うん類	14 (2.6%)	その類	18 (1.2%)	お類	4 (0.5%)
10	お類	1 (0.1%)	まあ類	1 (0.1%)	まあ類	4 (0.5%)
計	547		1468		971	

中級レベルの学習者はそれぞれのフィルターがもつ意味や働きを意識して、フィルターを使い分けることが困難である。「あー類」「うん類」などの母音型フィルターの多用が見られる。高 (2018) は、フィルターに対する学習者の意識調査で、学習者が無意識に母語である中国語のフィルターを混用していることを明らかにしている。特に、「うん」と「嗯 (en)」の混用が確認されており、母語の影響が指摘されている。本研究においても、表 3 の結果の通り、JJJ は「うん類」が 2.6% に対し、CCM 中級学習者の「うん類」が 16.2% になり、頻繁に使用する傾向がみられる。これにより、中国語母語話者がフィルター使用において母語の影響を受けやすいことが裏付けられた。

また、断り場面において JJJ は「あー類」「あの類」のフィルターを多用していることがわかるが、CCM も同様に使用率が高く、両者に顕著な差は見られない。そのため、フィルターの機能についてさらに分析する必要がある。調査②では、フィルターの発話位置と機能について検討する。

6. 調査②フィルターの機能

調査②では、葛 (2019) のフィルターの機能の分類に従い、「発話内容・構成調整機能」と「対人関係調整機能」の 2 つに分類する。さらに、「発話内容・構成調整機能」は「言葉探し」「換言・修復」「発話継続表明」「情報の曖昧化」に、「対人関係調整機能」は「和らげ」「ためらい」「共通理解」「発話権奪取」に下位分類した。表 4 の通りである。

表 4 「発話内容・構成調整機能」と「対人関係調整機能」の下位項目の発話例

機能	番号	下位項目	被験者	発話番号	発話例
発話内容 構成調整 機能	①	言葉探し	JJJ02	JJJ02-RP2-00080-K	そうですかー、 <u>あの一</u> そうですねー、実は私一、調理がねーけっこう、苦手なほうだと思ひましてー
	②	換言・修復	JJJ08	JJJ08-RP2-00220-K	私ちよつとあの水を、 <u>あの一</u> 、水を触ったりしているとちよつと手が荒れやすくて、たぶんちよつとそのま一の状態一で、調理を続けると、あの一、接客一にも影響があるかなと思うんです
	③	発話継続表明	JJJ01	JJJ01-RP2-00080-K	その接客の仕事一、やりたいな一と思って、 <u>あの一</u> 、このアルバイトも、応募して一、で今、その仕事一、だいぶ慣れてきて、けっこう常連さんお客さんと {笑}、ちよつと {笑}
	④	情報の曖昧化	JJJ35	JJJ35-RP2-00160-K	そうですよね、そうですよね (うーん) <u>うーん</u> 、や入りたい (はいりたい) <u>まあ</u> 入れ (はいれ) たら入りたい (はいりたい) ところなんです、けども

対人関係調整機能	⑤	和らげ	JJJ03	JJJ03-RP2-00120-K	え、いやー、すちよっと、それは、 <u>あの</u> 、 <u>ま</u> 僕料理ーがそんなに、うまくないし
	⑥	ためらい	JJJ29	JJJ29-RP2-00200-K	<u>んー</u> 、 <u>まあ</u> ほんとは嫌なんですけど
	⑦	共通理解	JJJ07	JJJ07-RP2-00240-K	はい、すごくやりがいを感じてるのでー、 <u>まあ</u> できたらー私ではなくて他のー、あのホールのスタッフの方に、頼んでいただき、けたら (いただけたら) いいんですけど
	⑧	発話権奪取	JJJ46	JJJ46-RP2-00220-K	<u>あの</u> 、接客担当のまままでお願いできないでしょうか

表5 JJJ のフィラー出現位置と機能別のフィラーの使用回数(割合%)

機能		位置	発話開始時	発話中	発話末
発話内容構成調整		言葉探し	122 (20.8%)	181 (30.8%)	13 (2.2%)
		換言・修復	-	41 (6.9%)	-
		発話継続表明	-	25 (4.2%)	-
		情報の曖昧化	10 (1.7%)	2 (0.3%)	3 (0.5%)
対人関係調整		和らげ	21 (3.6%)	52 (8.9%)	-
		ためらい	17 (2.8%)	77 (13.1%)	-
		共通理解	7 (1.2%)	11 (1.8%)	-
		発話権奪取	8 (1.4%)	-	-

表6 CCM 中級学習者のフィラー出現位置と機能別のフィラーの使用回数(割合%)

機能		位置	発話開始時	発話中	発話末
発話内容構成調整		言葉探し	145 (15.3%)	675 (71.1%)	7 (0.7%)
		換言・修復	-	212 (22.3%)	-
		発話継続表明	-	21 (2.2%)	-
		情報の曖昧化	-	-	-
対人関係調整		和らげ	37 (3.9%)	8 (0.8%)	-
		ためらい	15 (1.6%)	33 (3.5%)	-
		共通理解	-	-	-
		発話権奪取	2 (0.2%)	-	-

JJJ の会話データの分析 (表 5) では、発話中に「まあ類」を使用し、「和らげ」や「共通理解」の機能を持つ重要なフィラーを用いることが示されている。中級学習者は、発話中に、主に「言葉探し」や「換言・修復」のフィラーを使用しており、適切な言葉を探すための補助的な役割が中心である。また、中級学習者は、フィラーを頻繁に使用することで発話の自然な流れを維持しようとするが、その過剰使用により会話が冗長になる傾向がある。

7. まとめと今後の課題

本研究では、断り場面において母語話者と学習者のフィラーの使用頻度、出現位置別と機能別に分析した。その結果、各研究課題に対して以下のような結果を得た。

まず、「断り場面において、日本語母語話者が使うフィラーはどのような特徴があるか」について、以下 3 点が明らかになった。

(1) 母語話者の発話開始時に位置するフィラーは、主に人間関係を配慮しながらコミュニケーションを円滑に遂行させる機能がある。発話中に位置するフィラーは、発話の構成及び「和らげ」「ためらい」などの聞き手への配慮を意識して使用されている。発話末に「言葉探し」、「情報の曖昧化」、「共通理解」という効果を持つフィラーが使用されている。

(2) 母語話者は発話開始時において母音型フィラーがよく使われているが、発話中において語彙型フィラーを多用する。

(3) 「まあ類」フィラーは断り場面で「和らげ」や「共通理解」の機能を持ち、母語話者が頻繁に使用する傾向がある。

次に、「断り場面において、中国人日本語学習者は母語話者に比べ、フィラーにどのような問題点があるか」について、以下 2 点がわかった。

(1) 母語話者は、連続するあいづちの際に異なる種類のフィラーを使い分けるのに対し、中国人日本語学習者は同じ種類の「言葉探し」のフィラーを繰り返し使用する傾向がある。

(2) 母語話者はフィラーを「対人関係調整」の目的で活用し、人間関係を円滑に保つ役割を果たしているが、中国人日本語学習者はその点で母語話者ほど効果的にフィラーを使えていない。

最後に、日本語母語話者が無意識に使用するフィラーは、日常会話において非常に重要な役割を果たしている。しかし、フィラーは語彙のような明確な意味を持たず、形態が多様で統語的なルールも存在しないため、日本語教育において学習者に説明するのは難しい課題である。一方で、特に断り場面においてフィラーは会話内容を調整するだけでなく、人間関係を円滑に保つ上でも重要であることから、その重要性を学習者に理解させる必要がある。フィラーが多用されている生教材を活用し、学習者に多様なフィラーの形態に触れさせつつ、それぞれの表現効果を解説することは、学習者のコミュニケーション能力を向上させる効果的な方法といえる。

本研究は断りにおいてフィラーの出現位置と機能を分析したが、母語話者と学習者の断りにおいてフィラー使用の実態をより詳細に把握するためには、発話の展開構造から、個々の発話のフィラーを分析することが必要である。これらは今後の課題としたい。

主な参考文献

- 葛欣燕(2019)「日本語フィラーと中国語フィラーの機能に関する対照研究」九州大学地球社会統合科学府、博士論文
- 高丹(2018)「中国人上級学習者の自由会話におけるフィラーの使用—自己評価と母語話者評価のずれを中心に—」桜美林大学言語教育研究科、修士論文
- 呉秦芳(2006)「『フィラー』形式にみる日本人母語話者の会話管理—『日本語話し言葉コーパス(CSJ)』の『対談』場面分析を通して—」ニダバ 35、pp. 95-104
- 施信余(2004)「依頼に対する『断り』の言語行動について—日本人と台湾人の大学生の比較—」早稲田大学日本語教育研究、pp. 45-61
- 周莉(2012)「依頼のロールプレイにおけるフィラー」『日本文化研究』16、pp. 17-28
- 張齡文(2019)「断り表現のストラテジーに関する日中対照研究—『依頼』に対する断り表現を中心に—」第 1 回国際日本語プロフィシエンシー研究シンポジウム
- 山根智恵(2002)『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版
- ミチコヴァー・ルビシャ(2011)「日本語・スロヴァキア語の『依頼に対する断り』の比較研究—『弁明』と『断りの述部』を中心に—」『ヨーロッパ日本語教育』16、pp. 98-106